

(第1回) 四万十川大規模氾濫に関する減災対策協議会

● 第1回四万十川大規模氾濫に関する減災対策協議会

- ・ 実施日：平成28年5月24日(火) 10:30~11:40
- ・ 場 所：中村河川国道事務所 2階会議室
- ・ 出席者：中村河川国道事務所長、中筋川総合開発工事事務所長
高知地方気象台長、高知県土木部河川課長
高知県幡多土木事務所長、四万十市長
- ・ 事務局：中村河川国道事務所、四万十市

● 開催状況



● 決定事項

- ・ 5年間で達成する目標を『河川から氾濫した洪水流が貯留する閉鎖型地形の特徴を踏まえ、四万十川で想定しうる大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。』とする。

● 構成員発言要旨

- ・ 気象台としては、気象情報を発表しているが、発表する情報の内容が理解されていないため、避難につながらない。今後、我々の情報発表が、避難が必要な住民の背中を押せるように努力していく。(高知地方気象台長)
- ・ 今回、大規模な浸水被害が起こることを前提に社会全体が備えることは重要である。高知県の取組として、避難判断の基準となる水位の見直しを本年4月1日に実施している。高知県水防情報システムによる水位・雨量等の情報も活用してほしい。具同、楠島の内水対策については、内水対策協議会において情報共有を図りながら、国・県・市で一体となり進めていきたい。(高知県河川課長)
- ・ 四万十市では洪水ハザードマップの作成、水防連絡会による情報共有、要配慮者対策、行政防災無線の整備を実施している。横瀬川ダムを早期に完成させ、中筋川沿川の水防をしっかりとしてほしい。避難については住民の意識向上が必要と考えており、勉強会等を実施していきたいので協力をお願いする。(四万十市長)
- ・ 横瀬川ダム建設を平成31年度完成に向けて実施している。横瀬川ダムは河川の水位を下げるのが目標。内水による災害が無くなるにはダム、河道整備、排水機場、排水ポンプ車の設置等の役割分担が必要。(中筋川総合開発工事事務所長)